



農 委 だ よ り
常 総

平成27年8月1日発行
第 19 号

〒303-8501
茨城県常総市水海道諏訪町3222番地3
電話0297-23-2111(代表)

発行／常総市農業委員会

編集／農委だより常総編集委員会



耕作放棄地を解消し再生利用

農業委員自らが実際に耕作放棄地を解消し、再生利用として青パパイヤを作付しました。

倉倉増稲鈴和山横渡田橋中内齊沼石飯渡喜菊門田山菊小岡
野
持金田葉木田井島邊村本島海藤尻塚田辺山地井崎木地磯野
創一 元将 喜文政匡武 浩洋隆寛真勝 まち 松正義重孝
一廣亮一之勇仁雄一史夫清之郎志一美一明子貢男男男治一

農業委員
(議席順)

暑中お見舞い
申し上げます

地域の担い手

内守谷地区 寺田 元一さん

我が家は露地野菜、水稻を栽培する専業農家です。

茨城県立農業大学校を卒業後、6年位社会勉強した後就農し、30年以上になります。今は、ネギ・ホウレン草・米を栽培しています。

就農した頃はパブルの時代で、米も野菜も高値水準でした。近年は安値水準に変わりつつあり、この先、専業農家として食べていけるのか、不安になります。

また、異常気象による自然災害が各地で多発しており、この先、自然災害も念頭に作物を栽培していかねければなりません。

そんな中、今は農業経営を継続する上で大切なのは、いかにコスト削減をし、より良い作物を栽培するかだと私は思っています。

最近、インターネットでの販売をする人が増えてきましたが、これからは最先端の機器を利用しながら農業をする

紹介農業委員



鈴木 将員 農委

内守谷地区の寺田元一さんを紹介します。稲作と野菜を栽培する専業農家です。また、消防団の分団長として、地域の安全と安心を守り続けています。

時代なのかもしれません。

私達世代が挫折してしまつては、これからの地域農業が育ちません。地域農業のためより一層の努力をしていきたいと思っています。

消費者のご感想

菅生地区 鈴木 砂織さん

私の家族は、ご飯が大好きです。特に子供達は、朝から晩までご飯を食べて、部活の補食などにも、おにぎりを持つていくほど好きです。私の家では、ご飯は大切なエネルギーの源です。

たった一粒の種もみから二百五十から三百粒の米が生まれ、その一部が翌年の種もみとなり、田おこし・代かき・田植え・草取り・水の管理・肥料に防除・稲刈りに脱穀・乾燥ともみすり・米作りには春から秋まで休む暇がありません。

年々、お米の生産量も消費量も減っていると、よくニュースで耳にします。米作りは私が住むこの地域にとつては大切な文化なので、生産量・消費量、共に少しずつ増えていくことを願います。そして国産の食べ物を大切にすることも忘れてはいけないと思います。品物によっては、国産のものより外国産の方が安い

紹介農業委員



喜員 仁 農委

鈴木さんは農家の跡取りで、4世代家族です。優しい旦那さんと二人のお子さんに囲まれ、家庭でも、職場でも、いつも素敵な笑顔絶やさず頑張っています。

物がたくさんあります。少しい位値段が高くても子供達が食べるものなら親として、私は安全で安心な国産の物を選んでいきたいと思えます。

また、その時期が一番おいしく食べられる旬なものを選んで食べたり、食べ残しのないようにして、食料に感謝し、大切にしたいと思います。

新任農業委員紹介

飯田 真由美 委員



議会推薦により農業委員に就任し一年が経

ちました。農地相談、耕作放棄地の解消、農地のあつせん、農業者年金の加入推進などに取組んで参りました。その中で、農地の大切さを知り、次世代の人たちに引き継ぎ、いつまでも安心して安全な農作物を作らなければならないと思えました。

これからも農地を守るため努力して参ります。

田崎 松男 委員



農業委員に就任し、一年近くになりますが

まだ分らない事ばかりです。先輩方の指導を仰ぎながら、何とかやっている状態です。今後は、もつと農業のことを勉強し、地域の皆様の良き相談相手になりたいと思っております。



農業委員会(倉持創一会長)で耕作放棄地の再生利用

農業委員会では、昨年引き続き市内2カ所で耕作放棄地を解消し、青パパイヤを作付しました。農地はここ数年耕作されていなかったためか雑草が生茂り、つた等が絡まり、ユンボを使つての抜根作業となり、その後、トラクタにて整地しました。

今後は、草刈りや、肥料などの管理をし、秋の収穫時期には、昨年同様、市のイベントで販売を計画、さらに、好評でした青パパイヤ茶の製造も行う予定です。皆様へのPR方法や販売経路についても検討していきたいと考えております。



石下地区の苗植えの様子

宜野座村農業委員会 当市農委を現地視察研修

去る6月25日、沖縄県宜野座村農業委員会の委員11名が、当市農委を現地視察研修先として訪問されました。

当日は、倉持会長をはじめ、倉金代理、塩畑副市長が出席し、意見交換を行いました。

特に耕作放棄地の解消問題では、どこの農委でも苦労があるようで、当市の青パパイヤ栽培による耕作放棄地解消事例では、栽培や料理の方法など、活発な意見交換になりました。

また、農年の加入促進や農地の集積等について、貴重な情報交換ができました。



現地視察研修の様子

平成26年 農地の賃借料情報

平成26年1月から12月までに締結(公告)された賃貸借における賃借料水準(10a当たり)は、次のとおりとなっております。

1 田(水稻)の部

(平成27年4月1日公表)

締結(公告)された地域名		平均額(円)	最高額(円)	最低額(円)	データ数(件)
旧水海道市	基盤整備地域	14,500	24,000	2,000	543
	未整備地域	13,500	19,000	5,000	243
旧石下町	基盤整備地域	13,800	19,000	4,800	60
	未整備地域	15,300	19,000	9,500	12
(参考)常総市平均		14,300			858

2 畑(普通畑)の部

締結(公告)された地域名		平均額(円)	最高額(円)	最低額(円)	データ数(件)
旧水海道市全域		8,800	10,000	5,000	62
旧石下町全域		11,500	15,400	5,000	10
(参考)常総市平均		10,100			72

- * 1 この情報は、農地法第52条の規定により、賃借料の目安として提供するものです。
- * 2 この情報は、平成26年中に実際に締結された賃貸借契約の賃借料データを集計したものです。
- * 3 基盤整備地域とは、土地改良などによりほ場整備が完了している地域です。
- * 4 データ数は、集計に用いた筆数です。
- * 5 賃借料を物納支給(水稻)としている場合は、60kg当たり9,500円に換算しています。
- * 6 金額は、算出結果を四捨五入し100円単位としています。
- * 7 「(参考)常総市平均」の平均額は、各区分の平均値(四捨五入前)をデータ数により加重平均した値です。

編集委員会で 現地視察研修

去る2月10日、東京の全国農業新聞廣済堂有明工場を訪ね、農業新聞の編集並びに印刷工程について、現地視察研修しました。

当日は、稲垣情報事業本部長をはじめ、新聞事業部の方々から、取材の仕方や記事の作り方について説明を受け、新聞の印刷工程、大きな印刷機を見学しました。

農委だよりがより多くの人に読んで頂けるよう、わかりやすく、親しみのある記事作りに研修成果を活かして参ります。



編集委員研修の様子

農業者年金に 加入しましょう

年金加入で、農業経営と安心で豊かな老後生活をがっちりサポートしましょう

加入資格は20歳以上60歳未満の方で、国民年金第1号被保険者及び年間60日以上農業に従事している方が対象となります。

農業者年金のメリットですが、配偶者や後継者など家族農業従事者も加入できます。又、意欲ある担い手には保険料助成があります。さらに、保険料は自由に決められ、税制面でも大きな優遇措置があります。

積立方式の安定した制度で、80歳まで保証付きの終身年金です。

詳しくは、最寄りの農業委員または、農業委員会事務局までご連絡ください。後日ご相談にお伺いいたします。

農家訪問



岡田地区
長塚 美代子さん

長塚さんは、主に、南瓜・スイカ・メロン・水稲を栽培しており、秋冬には、白菜・キャベツを、両親と研修生3人で、複合経営しています。

訪問の途中、のぼり旗が風に揺られていて、旗沿いに進むと長塚さん宅があり、隣には季節限定の農産物直売所を開設していました。南瓜・スイカ・メロンと、この時期ならではの品が並んでいました。農作業所では、ご主人がスイカと南瓜の選別作業をしていました。

お客様の接待をしているのは奥さんの美代子さんです。持ち前の明るい性格で、話術

紹介委員



菊池 美代子
委員長

専業農家に嫁ぎ、子育ても終わりに近づき、これからは、農業経営も女性の立場から携わり、仕事に頑張る、将来有望な長塚美代子さんを訪問しました。

と笑顔をふりまき、まさに販売担当者といったところです。お客様が途切れたのを見て、話を聞いてみますと、家族の皆が長い期間頑張つて働き、良い品質の物ができて、私が「商品の価値をきちんと説明して伝わらなければ、家族の苦労も無駄になりますから」と、直売所に配達をしながら、日々勉強しているようです。漬物加工の許可を取得してあり、「将来は地場産品を使つた加工品でもできればと考えています。」と汗を拭きながら話をしてくれました。

中間管理事業について

茨城県農林振興公社（農地中間管理機構）では、農業経営の縮小やリタイヤする方などから農地を借り受け、地域の担い手となる農家に貸し出す農地中間管理事業を行っています。この事業を利用して農地を借りたい方、貸したい方はご相談ください。申込方法・問い合わせは、農業委員会事務局・県農林振興公社（TEL 029-1239-1713）までご連絡ください。

編集後記

農委だより第19号をお届けいたします。今回の表紙は、農業委員自らが耕作放棄地解消・再生利用に取り組んでいる写真です。今後の経過は次号で報告します。

全国農業新聞

営農と暮らしに役立つ

発行日 毎週金曜日

購読料 一ヶ月七百円

申し込みは農業委員会へ